

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑥

カリキュラム・マネージャー

両校の要望のまとめ ー連携校の教育資源を活用した教育活動ー

8月に実施した「連携校の教育資源の活用」にかかわる要望のまとめです。

今後、各項目について「交流及び共同学習」委員会で対応を検討することになりますが、関連する情報やアイデア等がありましたらお知らせください。

更別農業高校からの要望

発達検査（wisc,k-abc 検査等）ができる教員の協力◆小2程度の算数の教材の提供◆コミュニケーションスキルを高める教材・教員の提供◆通級指導での協力（ST、MT）◆場面緘黙の状態の生徒の関わり方のヒント◆物事の優先順位を考える力を育てるための教材等◆国社数理英など教科指導で進度が遅れている生徒に対する個別の支援◆体育科の単元、教員の専門、生徒の運動能力についての情報提供◆参加可能な中高養の実習や授業の情報提供◆専門スキルをもつ先生の継続的支援◆授業参観・意見交換◆SSTに詳しい先生の協力（年間指導計画作成）◆校歌の歌唱指導（音楽担当教員がいなく、適切な校歌指導が難しい）

中札内高等養護学校からの要望

10月8日の学校間交流に向けた、更農の学校紹介資料の提供（動画や紙面、生徒や先生に来ていただいて直接説明、難しければ動画やオンラインなど）◆更農が身近に感じられる掲示物◆日ごろから、本校の生徒も参加可能な行事等のポスターや案内の提供（生徒のメッセージを添え）

第2回連携協議会開催予定

年3回実施予定のB地区の連携協議会の開催日程が、令和6年10月4日（月）に決まりました。

モデル事業がスタートしてから現在までの取組及び今後の進め方について協議する予定です。

（具体的な協議内容）

- 生徒アンケート調査結果
- 教職員アンケート調査結果
- 初任段階研修、生徒指導講演会
- 学校間交流の実務担当者事前意見交換会、実施計画
- 「交流及び共同学習」の推進状況
- 「連携校の教育資源を活用した教育活動」の推進状況

モデル事業B地区連携協議会委員

1. 中札内村教育委員会教育長
2. 北海道教育大学釧路校准教授
3. 十勝教育局教育支援課長
4. 特別支援教育課指導主事
5. 特別支援教育センター知的障がい教育室長
6. 北海道更別農業高等学校長
7. 同教頭
8. 同特別支援教育コーディネーター
9. 北海道中札内高等養護学校長
10. 同教頭
11. 同主幹教諭
12. 同特別支援教育コーディネーター
13. 同カリキュラム・マネージャー

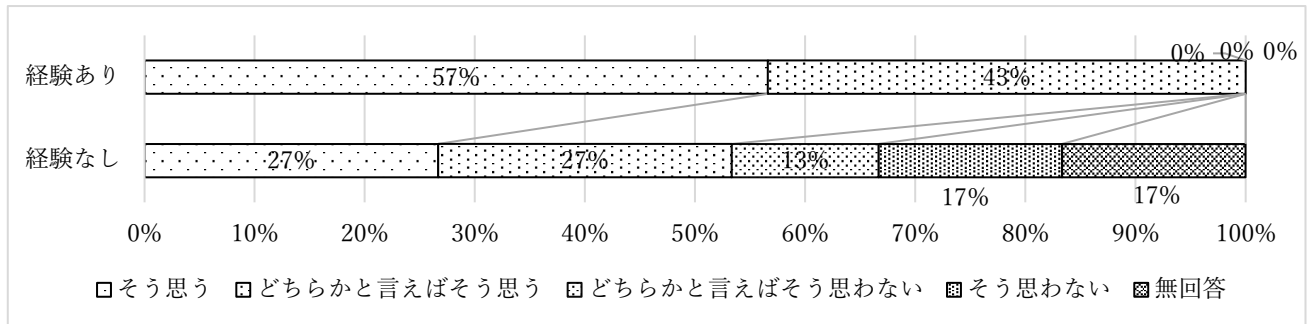
授業や行事を通して「共に学ぶ」意味 ―クロス分析からの示唆―

今回の生徒アンケートのクロス分析で示唆されたことの一つは、「共に学ぶ」意味を再認識することの必要性ではないかと思います。

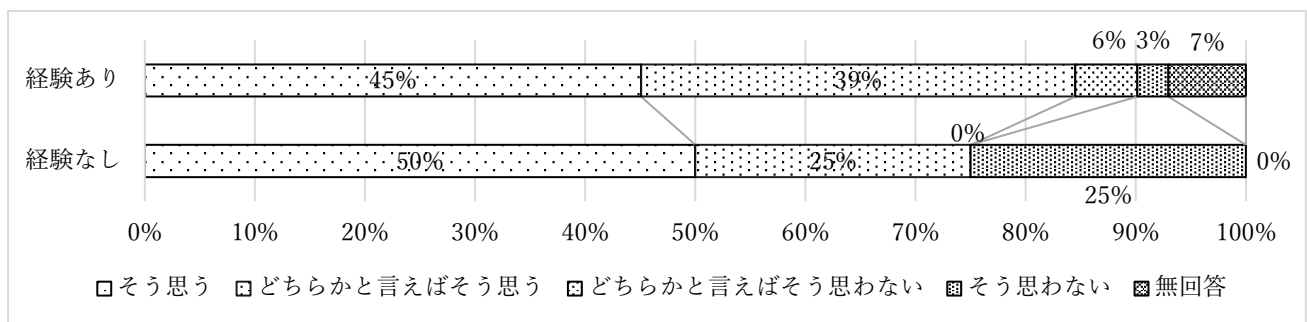
アンケートでは、2通りの「経験」の有無を問う質問がありましたが、「授業や行事に参加した経験」の有無は、「意識」を問う質問との相関関係が強く表れています。

「授業や行事の参加の経験」は、単なる「交流」以上に重要な意味があるのかも知れません。

（グラフ1）「授業や行事に参加した経験」×「地域の活動に参加したいと思いますか？」



（グラフ2）「交流した経験」×「地域の活動に参加したいと思いますか？」



（表1）

【相関係数の絶対値の一般的解釈】 0.0～0.2 ほとんど相関関係がない 0.2～0.4 やや相関関係がある 0.4～0.7 かなり相関関係がある 0.7～1.0 強い相関関係がある	他の学校の生徒と交流した経験		他の学校の授業や行事に参加した経験	
	更農	中高養	更農	中高養
これからも他の学校の生徒と交流したいですか？	0.15	0.15	0.41	0.45
お祭りや防災訓練など、地域の活動に参加したいと思いますか	0.04	0.04	0.27	0.54
人の役に立ちたいと思いますか	-0.05	-0.04	0.26	0.41
自分にはよいところがあると思いますか？	-0.06	-0.01	0.07	0.37
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？	0.12	0.07	0.07	0.35
他の学校の授業を受けてみたいですか？	0.13	-0.14	0.23	0.39

- 生徒アンケートの質問は、中高養の学校間交流のねらい「地域住民や他校の児童、生徒等との交流学習を通じ、1人の人間として認められる経験を積み、主体的、協働的に社会に参加しようとする態度を育成する。」を基につくりました。